【総括表】

用途	大規模拠点施設

1　対象施設

本個別施設計画での対象施設は、次に示す施設とする。

	施設名	所在地	基本的な方針	摘要
1	豊田市美術館	小坂本町	現状維持	
2	豊田市総合体育館 （スカイホール豊田）	八幡町	大規模修繕	
3	市民文化会館	小坂町	大規模修繕	
4	豊田市古瀬間聖苑	古瀬間町	大規模修繕	
5	産業文化センター	小坂町	大規模修繕	
6	公設卸売市場	高崎町	大規模修繕	
7	豊田地域医療センター	西山町	施設更新	
8	豊田スタジアム	千石町	大規模改修	

2　計画期間

2021 年度から 2026 年度までの 6 年間とする。

3　目標使用年数

原則、目標使用年数は 57 年以上とする。

4　対策の優先順位の考え方

当該施設は、広域都市施設として市内外からの利用者が利用する施設であることから、計画的な施設の維持保全による施設利用への影響を最小限に留めるため、各施設の老朽化状況や主要設備の耐用年数に応じ対策を実施することを基本とし、かつ１施設の工事時期を集約し行うものとする。

対策等については、計画期間内における財政負担等の平準化、今後の施設利用計画等を踏まえ、予防保全型の設備等で耐用年数が到来する施設から優先的に実施する。

【個別表】

1	施設名	豊田市美術館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	小坂本町	延床面積	11,251.10 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
豊田市美術館	RC 造	1995	11,139.64	地上 3 階 地下 2 階	
機械室	RC 造	1995	111.46		

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
建築は概ね健全な状態。２０２１年に築２６年を超え、耐用年数から２０２７年を目途に主要設備が更新時期を迎える。 【過去の大規模修繕】 ２０１５年：熱源設備、自動制御、中央監視更新、EV 新設による展示スペースバリアフリー化ほか ２０１８年：常設展示室ほか複層ガラスに変更、各所トップライト廻りシーリング・サッシ更新、屋上防水更新、外壁補修・塗装、特定天井改修（落下防止改修）、展示室照明 LED 化

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減を図る。具体的には、予防保全型の設備等に関する老朽化状況や残存耐用年数等に応じ、更新等を同時期に実施することで、施設利用への影響・事業費に縮減が図られるものについては一体的に対策を講じるとともに、あわせて環境性能等の機能向上を図る。 また、日常点検、法定点検や各部位の劣化状況の調査・把握を行い、施設管理の PDCA サイクルを構築することで、各部位の耐用年数の延伸、施設の長寿命化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。 ☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保 ２０１８年度に作成した日常点検マニュアルを活用した点検のほか、各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）により、施設の劣化状況を定期的に把握しつつ、各部位の劣化度を調査し、緊急度を設定。

	□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
	☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
	展覧会事業では、一定数の展覧会において、既にマスコミと共催するなど民間活力を導入した事業を実施。今後、施設運営の更なる合理化を図るため、指定管理等の手法も含め検討。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	照明器具のＬＥＤ化（展示スペース以外）や更新にあわせた各設備機器の機能改善（高効率化）を実施し、電力負荷等の低減を図ることで、更新周期の長期化・光熱水費の削減などによるランニングコストの縮減と温室効果ガス（CO_2）の排出削減を進める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	
社会情勢や施設利用ニーズの変化等に対応した機能向上・改善の必要性がみられる場合は、施設の休館期間の最小化など利用者への影響を最小限に留めるため、大規模改修の実施時期と範囲について詳細に検討が必要。 また、マスコミと共催するなどの展覧会は、３年ほど前から日程等を詰めていくため、大規模改修実施時期は、展覧会スケジュールとの調整も必要。	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

2	施設名	豊田市総合体育館 （スカイホール豊田）

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	八幡町	延床面積	24,637.37 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
メインホール	RC・S 造	2006	18,786.69	2 階	
サブホール・武道館	RC・S 造	2010	5,824.69	3 階	
屋外便所	RC 造	2010	25.99	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
下記以外は概ね健全な状況。 ・メインホール２F カーテンウォールより一部漏水あり。 ・２F デッキ平板が一部破損。 ・コンクリート打放し面は各所にクラック・白華が見られる。 ２０２１年に築１５年を超え、耐用年数から２０２５年を目途に空調設備が更新時期を迎える。 サブホールは築年数が浅く建築後１０年程度の施設であり、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 運動施設においてはライフサイクルから考えると比較的良好な状態である。 【過去の大規模修繕】 ２０１４年：電気自動車充電設備新設

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減を図る。具体的には、予防保全型の設備等に関する老朽化状況や残存耐用年数等に応じ、更新等を同時期に実施することで、施設利用への影響・事業費に縮減が図られるものについては一体的に対策を講じるとともに、あわせて環境性能等の機能向上を図る。 また、日常点検、法定点検や各部位の劣化状況の調査・把握を行い、施設管理の PDCA サイクルを構築することで、各部位の耐用年数の延伸、施設の長寿命化を図る。

（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保 ２０１９年度に作成した日常点検マニュアルを活用した点検のほか、各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）により、施設の劣化状況を定期的に把握しつつ、各部位の劣化度を調査し、緊急度を設定。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進 今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善 現在、指定管理者制度により公益財団法人豊田市体育協会が管理、運営しており、スポーツや文化を通じて、様々なニーズに応じた利用形態を展開することで、運営品質の向上を図っている。今後も、加盟団体等との連携を図り、大規模イベントの誘致、開催を実施。 また、豊田市体育協会の自主事業であるクライミングウォールやスタジオの活用等も含めた利用拡大に向け、運営、事業展開を推進。
☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減 照明器具の LED 化（展示スペース以外）や更新にあわせた各設備機器の機能改善（高効率化）を実施し、電力負荷等の低減を図ることで、更新周期の長期化・光熱水費の削減などによるランニングコストの縮減と温室効果ガス（CO2）の排出削減を進める。 特に、空調設備については、夏場の熱源に対する負荷が大きいことから、機器の更新にあわせてピークカットを図る。 また、イベント利用や車いすによるスポーツの利用により、アリーナの床（フローリング）損傷が多いため、今後、大規模改修工事にあわせて、床材の見直しを検討し、ランニングコストの縮減を図る。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項
国際的な大規模イベントや社会情勢・施設利用ニーズの変化等に対応した機能向上・改善の必要性がみられる場合は、施設の休館期間の最小化など利用者への影響を最小限に留めるため、大規模改修の実施時期と範囲について詳細に検討が必要。

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

3	施設名	市民文化会館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	小坂町	延床面積	17,225.88 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
大ホール	SRC 造	1981	14,749.30	地上 5 階 地下 1 階	
小ホール	SRC 造	1975	2,476.58	地上 2 階 地下 1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
概ね健全な状況だが、２０２１年に築４０年を超え、耐用年数から２０２４年を目途に熱源機器等が更新時期を迎える。 【過去の大規模修繕】 ２００１、２００２年：受変電設備更新、大ホール熱源・空調機器更新、受水槽・衛生器具更新 ２００４年：耐震補強 ２０１１年：小ホール：屋上防水・笠木更新、外壁補修・浸透性吸水防止材塗布、スチールサッシ更新 大ホール：座席・EV 更新 ２０１４年：小ホール熱源・空調機器更新 ２０１８年：バリアフリー工事・特定天井対策工事 ２０１９年：大ホール：屋上防水・笠木更新 ２０２０、２０２１年：防災設備、舞台機構・照明・音響設備、空調機器等更新（２０２１年 10 月末完了予定）

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減を図る。具体的には、予防保全型の設備等に関する老朽化状況や残存耐用年数等に応じ、更新等を同時期に実施することで、施設利用への影響・事業費に縮減が図られるものについては一体的に対策を講じるとともに、あわせて環境性能等の機能向上を図る。 また、日常点検、法定点検や各部位の劣化状況の調査・把握を行い、施設管理の PDCA サイクルを構築することで、各部位の耐用年数の延伸、施設の長寿命化を図る。
（２）取組方針

以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
２０１８年度に作成した日常点検マニュアルを活用した点検のほか、各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）により、施設の劣化状況を定期的に把握しつつ、各部位の劣化度を調査し、緊急度を設定。 上記により、２０２４年に大規模修繕の実施を位置付け、安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
老朽化が進む視聴覚ライブラリーや賃貸借料の生じる市民ギャラリーを廃止し、市民文化会館への機能集約を検討。これにより維持コストの縮減や、文化ゾーンへの機能集中による利用者の利便性向上を図る。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
現在、指定管理者制度により公益財団法人文化振興財団が管理、運営。 同財団が持つ各種文化団体や地域等とのネットワークにより、利用者のニーズの把握や事業実施時の文化団体等の活力・資源の活用により、様々なサービスを提供しており、今後も、同財団のノウハウを生かした運営、事業展開を推進。
☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
照明器具の LED 化（展示スペース以外）や更新にあわせた各設備機器の機能改善（高効率化）を実施し、電力負荷等の低減を図ることで、更新周期の長期化・光熱水費の削減などによるランニングコストの縮減と温室効果ガス（CO2）の排出削減を進める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項
他施設の更新状況等も考慮しながら適切な時期を見極め、改修や建替の検討を進める必要がある。

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

4	施設名	古瀬間聖苑

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	古瀬間町	延床面積	5,104.38 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
古瀬間聖苑	SRC 造	1989	5,104.38	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
建築は概ね健全な状態。２０１９年に築３０年を超え、耐用年数から２０２４年を目途に主要設備（熱源機器、空調機器、中央監視、衛生・消火設備等）が更新時期を迎える。 【過去の大規模修繕】 ２００６年：中央監視装置更新 ２０１１年：受変電設備更新 ２０１７年：防水更新

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減を図る。具体的には、予防保全型の設備等に関する老朽化状況や残存耐用年数等に応じ、更新等を同時期に実施することで、施設利用への影響・事業費に縮減が図られるものについては一体的に対策を講じるとともに、あわせて環境性能等の機能向上を図る。 また、日常点検、法定点検や各部位の劣化状況の調査・把握を行い、施設管理のＰＤＣＡサイクルを構築することで、各部位の耐用年数の延伸、施設の長寿命化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。 ☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保 ２０１８年度に作成した日常点検マニュアルを活用した点検のほか、各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）により、施設の劣化状況を定期的に把握しつつ、各部位の劣化度を調査し、緊急度を設定。 上記により、２０２４年度に大規模修繕の実施を位置付け、安全性を確保する。

	□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
	□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減 照明器具のＬＥＤ化（展示スペース以外）や更新にあわせた各設備機器の機能改善（高効率化）を実施し、電力負荷等の低減を図ることで、更新周期の長期化・光熱水費の削減などによるランニングコストの縮減と温室効果ガス（ＣＯ２）の排出削減を進める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項
社会情勢や施設利用ニーズの変化等に対応した機能向上・改善の必要性がみられる場合は、施設の休館期間の最小化など利用者への影響を最小限に留めるため、大規模改修の実施時期と範囲について詳細に検討が必要 特に、今後の高齢化による待合室の細分化や告別室・収骨室の増築、計画対象外としている火葬炉・集塵機の延命化対策が必要となる場合は、大規模改修の実施時期の見直しを含め一体的な対策の実施を図る。

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

5	施設名	産業文化センター

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	小坂町	延床面積	13,079.36 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
産業文化センター	SRC 造一部 RC 造、S 造	1985	13,079.36 ㎡	地上 5 階 地下 1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
建築は概ね健全な状態。中央監視、駐車場管制設備に部品供給期間が終了しており、故障した際、支障がでる可能性あり。 ２０２１年に築３６年を超え、耐用年数から２０２５年に主要設備（受変電設備、空調機器、ポンプ類・消火設備等）が更新時期を迎える。 【過去の大規模修繕】 ２００３年：熱源機器、空調機器、空調配管等更新 ２００８年：外壁補修、内装更新、EV 棟増築、衛生器具・衛生配管更新、EV 制御リニューアル ２０１４年：１、４Ｆ：内装、照明、空調、スプリンクラー配管、防災設備更新 ２０１９年：屋上防水更新、外壁補修

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減を図る。具体的には、予防保全型の設備等に関する老朽化状況や残存耐用年数等に応じ、更新等を同時期に実施することで、施設利用への影響・事業費に縮減が図られるものについては一体的に対策を講じるとともに、あわせて環境性能等の機能向上を図る。 また、日常点検、法定点検や各部位の劣化状況の調査・把握を行い、施設管理の PDCA サイクルを構築することで、各部位の耐用年数の延伸、施設の長寿命化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。 ☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保

	２０１８年度に作成した日常点検マニュアルを活用した点検のほか、各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）により、施設の劣化状況を定期的に把握しつつ、各部位の劣化度を調査し、緊急度を設定。 上記により、２０２６年度に大規模修繕の実施を位置付け、安全性を確保する。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進	
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善	
☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減	
	照明器具の LED 化（展示スペース以外）や更新にあわせた各設備機器の機能改善（高効率化）を実施し、電力負荷等の低減を図ることで、更新周期の長期化・光熱水費の削減などによるランニングコストの縮減と温室効果ガス（CO2）の排出削減を進める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	
社会情勢や施設利用ニーズの変化等に対応した機能向上・改善の必要性がみられる場合は、施設の休館期間の最小化など利用者への影響を最小限に留めるため、大規模改修の実施時期と範囲について詳細に検討が必要	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

6	施設名	公設卸売市場

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	高崎町	延床面積	15,374.50 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
水産棟	S 造	1981	5,862.36	2 階	
青果棟	S 造	1981	6,626.49	2 階	
その他 19 棟	S 造	1981 他	2,885.67	1 階他	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
建築は概ね健全な状態。２０２１年に築４０年を超え、耐用年数から２０２３年を目途に主要設備（シャッター開閉器、空調機器、受水槽、衛生器具・配管、消火設備等）が更新時期を迎える。 【過去の大規模修繕】 １９８３年：コンテナ保管庫新築 １９８９、１９９０年：加工棟、商品保管庫新築 １９９８年：青果棟買荷積込所（鉄骨屋根）・水産棟活魚水槽棟増築、水産棟仲卸管理用シャッター、オーバースライダー更新 ２０００年頃：生ゴミ処理棟付近受変電設備更新、コンテナ保管庫増築、青果棟防水更新 ２００１～２００３年：水産棟・青果棟空調機更新、電気子メーター更新 ２００４年：製氷倉庫（事務所）新築 ２０１０年：ITV 監視カメラ新設、青果冷凍冷蔵設備更新 ２０１１年：水産棟・青果棟外壁補修、防水更新、オーバースライダー更新 ２０１２年：水産冷蔵庫棟用受変電設備更新、水産棟・青果棟自火報更新 ２０１３年：水産棟・青果棟受変電設備更新、製氷棟　製氷設備更新 ２０１５年：生ゴミ処理棟　発泡スチロール処理設備更新 ２０１７年：浄化槽施設修繕

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方

① 安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減を図る。具体的には、予防保全型の設備等に関する老朽化状況や残存耐用年数等に応じ、更新等を同時期に実施することで、施設利用への影響・事業費に縮減が図られるものについては一体的に対策を講じるとともに、あわせて環境性能等の機能向上を図る。

また、日常点検、法定点検や各部位の劣化状況の調査・把握を行い、施設管理のPDCA サイクルを構築することで、各部位の耐用年数の延伸、施設の長寿命化を図る。

（２）取組方針

以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。

☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保

２０１８年度に作成した日常点検マニュアルを活用した点検のほか、各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）により、施設の劣化状況を定期的に把握しつつ、各部位の劣化度を調査し、緊急度を設定。

上記により、２０２３年度に大規模修繕の実施を位置付け、安全性を確保する。

☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進

施設老朽化に伴う更新に際し、施設の整備方針に基づき複合化・集約化を図り余剰空間を生み出す。余剰空間には、市場機能に限定しない機能の導入を図る。

策定中の経営戦略にて整備案として明記し、更新計画の基礎とする。

☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

指定管理者制度などの公設民営や民営化等、民間活力の導入を検討していく。また、施設更新によりできた余剰空間を活用し、市場活性化のための機能を設置することで市場の賑わいを創り出し、新たな事業推進や運営方法の改善を図る。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

照明器具の LED 化（卸売場・製氷棟・ゴミ処理棟以外）や更新にあわせた各設備機器の機能改善（高効率化）を実施し、電力負荷等の低減を図ることで、更新周期の長期化・光熱水費の削減などによるランニングコストの縮減と温室効果ガス（CO2）の排出削減を進める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

社会情勢や施設利用ニーズの変化等に対応した機能向上・改善の必要性がみられる場合は、休場期間の最小化など利用者への影響を最小限に留めるため、大規模改修の実施時期と範囲について詳細に検討が必要

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

7	施設名	豊田地域医療センター

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	西山町	延床面積	28,519.25 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
新棟	SRC 造	2021	16,486.82	7 階	
南棟	RC 造	1991 2021 改修	6,740.95	4 階	
西棟	S 造	2007 2021 改修	2,261.75	2 階	
看護学校	RC 造	2003	3,029.73	3 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
新棟、南棟：改修工事中。 看護学校：建築は概ね健全な状態。２０２１年に築１８年を超え、耐用年数から２０２７年に主要設備（空調機器、衛生ポンプ類、防災設備等）が更新時期を迎える。 【過去の大規模修繕（看護学校）】 ２０１８年：屋上防水更新、外壁補修・塗装

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減を図る。具体的には、予防保全型の設備等に関する老朽化状況や残存耐用年数等に応じ、更新等を同時期に実施することで、施設利用への影響・事業費に縮減が図られるものについては一体的に対策を講じるとともに、あわせて環境性能等の機能向上を図る。 また、日常点検、法定点検や各部位の劣化状況の調査・把握を行い、施設管理の PDCA サイクルを構築することで、各部位の耐用年数の延伸、施設の長寿命化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。 ☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保

	２０１８年度に作成した日常点検マニュアルを活用した点検のほか、各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）により、施設の劣化状況を定期的に把握しつつ、各部位の劣化度を調査し、緊急度を設定。
	□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
	□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	新棟・南棟は照明の LED 化など省エネ対応予定。 看護学校は照明器具の LED 化、更新にあわせて各設備機器の機能改善（高効率化）を実施し、電力負荷等の低減を図ることで、更新周期の長期化・光熱水費の削減などによるランニングコストの縮減と温室効果ガス（CO2）の排出削減を進める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	
社会情勢や施設利用ニーズの変化等に対応した機能向上・改善の必要性がみられる場合は、施設の休館期間の最小化など利用者への影響を最小限に留めるため、大規模改修の実施時期と範囲について詳細に検討が必要	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

8	施設名	豊田スタジアム

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	千石町	延床面積	106,066.16 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
豊田スタジアム	地上：S 造 地下：RC 造、SRC 造	2001	106,066.16	地下 2 階 地上 4 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
建築は概ね健全な状態。２０２１年に築２０年を超え、耐用年数から２０２１年に主要設備（熱源機器、空調機器、給水・給湯設備、雨水利用設備、プール設備、防災設備等）が更新時期を迎える。 可動式屋根は今後撤去予定。 【過去の大規模修繕】 ２０１６年：大型映像画像表示部、機器類交換 ２０１８年：マスト塗装

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減を図る。具体的には、防保全型の設備等に関する老朽化状況や残存耐用年数等に応じ、更新等を同時期に実施することで、施設利用への影響・事業費に縮減が図られるものについては一体的に対策を講じるとともに、あわせて環境性能等の機能向上を図る。 また、日常点検、法定点検や各部位の劣化状況の調査・把握を行い、施設管理の PDCA サイクルを構築することで、各部位の耐用年数の延伸、施設の長寿命化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。 ☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保 ２０１８年度に作成した日常点検マニュアルを活用した点検のほか、各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）により、施設の劣化状況を定期的に把握しつつ、各部位の劣化度を調査し、緊急度を設定。 上記により、２０２１年度に大規模改修の実施を位置付け、安全性を確保する。

	□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
	☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
	現在、指定管理者制度により㈱豊田スタジアムが管理、運営しており、スポーツや文化を通じて、様々なニーズに応じた利用形態を展開している。今後も、主要な関係団体（日本サッカー協会、県サッカー協会、名古屋グランパス、県ラグビー協会等）との連携を図り、大規模イベントの誘致、開催をしていく。 また、一般利用（諸室、公園利用）も含めた利用拡大に向け、運営、事業展開を推進していく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	照明器具の LED 化（展示スペース以外）や更新にあわせた各設備機器の機能改善（高効率化）を実施し、電力負荷等の低減を図ることで、更新周期の長期化・光熱水費の削減などによるランニングコストの縮減と温室効果ガス（CO2）の排出削減を進める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	
当該施設を最大限に利活用するため、大規模改修期間中のピッチの利用停止、観客席等の利用制限区域及び期間を最小限とし、かつＪリーグ等のイベント開催のほか次期大規模国際的イベントまでに対策を確実に完了する工事計画の検討が必要。	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。